

令和7年度第1回高知県子どもの環境づくり推進委員会 会議の概要

1 日程及び議題

日 時：令和7年6月15日（日） 14:00～15:20

場 所：高知県庁本庁舎2階 第二応接室

議 題：（1）子どもの環境づくり推進計画（第四期）の総括について
（2）令和7年度子ども条例フォーラムの開催内容について

2 会議の概要（委員からの主な意見）

事務局説明：（1）子どもの環境づくり推進計画（第四期）の総括について

●事務局から子どもの環境づくり推進計画（第四期）の総括について説明

○委員

- ・プラン11の「不登校支援推進プロジェクトの実施」について、不登校の子どもは学校に行けていないので、家にいる。だから社会に開かれるチャンスを持っていない。そういう点を県としてどのように考えるか。（不登校の）数が増え続けているので、多分この方法は上手くいっていない。（計画の柱の一つに）「家庭、学校および地域社会における活動を通じて、人間性、社会性を育む」とあるが、家庭と学校が難しい子どもたちにとって「地域社会」とはどういったものなのか。居場所となり得るような「地域社会」を想定しているのか、と思う。
- ・先日参加した人権集会で、不登校の子どもたちを支えている先生方の発表を聞き、先生方の意欲の高さを肌で感じた。もしかしたら学校の先生方が、そういう不登校の子どもたちが必要とする居場所の形を知っているのかもしれない。不登校の子どもたちの居場所づくりについて、どの課が担当し、どのようにさせるのか、そこをもう少し考えてほしい。
- ・不登校の子どもたちの「なぜ学校に行けないのか」という問題にまだ切り込んでおらず、進んでいないと感じる。
- ・「森林環境教育指導者の育成」について、参加人数を成果として述べている。指導者になった時点で成果ではないか、と思う。

【事務局】

- ・居場所づくりは大事。不登校特例校やフリースクールなども含めて、各担当課が取り組みを進めている。
- ・他県に比べると不登校の発生率が高く、サポートが必要。

○委員

- ・プラン1の「動物愛護体験教室」の課題として、「専門人材や実施団体の確保」とある。私は今、「ペットリオ」という団体で、動物愛護の活動をしており、小学生向けに出前講座をするのを目標としているので、協力したい。

【事務局】

- ・担い手が少ない状況なので、積極的に取り組んでいただき、協力していただけるとありがたい。

○委員

- ・プラン5、子ども食堂の取り組みについて。近所に子ども食堂があり、友達に会えるし、ご飯も美味しいので好きだったが、最近開いているところを見なくなった。課題に「定期的な開催への支援が必要」とあるが、現実はやはり、人が集まらないだろうと思う。どういう支援があるか教えてほしい。

【事務局】

- ・運営費の支援などがあるが、人が来ないということで、閉じざるを得ない食堂もあると思う。
- ・できる限り県として、全市町村への展開に向けて、支援をしていかないといけないと思う。
- ・食堂を開いても人が来ない、ということがないように周知の面のサポートも必要と感じる。
- ・担当課に伝えさせていただく。

○委員

- ・プラン1の「自然体験活動」について。進学や就職で、高知県から人が流出する現状がある。森永卓郎氏の著書で、「田舎を楽しむには教養が必要」とあり、耳が痛い話だと思った。小さい頃から自然体験をしていたら、教養になっていいなと思う。私が小学生だったら、梅干しの作り方とか、梅酒の漬け方とか、そういう実用的なことを教えてほしい。

【事務局】

- ・おっしゃるような内容を含めて実施すれば、地元が好きになると思う。子どもの頃に経験していれば、将来思い出すこともある。山であったり川であったり、いろんな体験の機会をできるだけ確保していきたいと感じる。

○委員

- ・「人権啓発フェスティバルの開催」の成果として来場者数のみ掲載しているが、それだけではなく、ここで何をしたかや、来場者の意見など、得られた成果を教えてほしい。

【事務局】

- ・フェスティバルでは来場者アンケートも取っていると思う。例えば「人権に対する意識が芽生えた」など、そういったところをご指摘の「成果」だと思う。その辺りが資料に掲載できていなかったのので、改善していきたい。

○委員

- ・プラン5の子ども食堂について。例えば、高齢者施設の一部を借りて、入所している高齢者の方にも手伝ってもらいながら実施するという形もある。お年寄りというのは、若い子が来ると元気が出る。若い子も、高齢者を楽しく理解できる。こういった連携をすとうまくいくのではと思う。

- ・プラン10、児童虐待やいじめの問題について。「相談しやすい仕組みづくり」とあるが、虐待を恐れ相談できない子どももいるので、例えば幼稚園や保育園などで、先生が「おかしいな」と気づき、手を伸ばしてもらうような仕組みづくりを考えてもらいたい。

【事務局】

- ・ご指摘のとおり、周りの人が気付ける体制や、人材の育成が必要と思う。担当課に伝え、対策を考えていきたい。

○委員

- ・子ども食堂の補足をすると、実際に稼働しているのは、昨年度末で97箇所。物価高騰や米不足で大変苦労しており、一時的に中止しているところもある。県から補助金が出ているが、フードドライブや企業の協力もあり進めているところ。
- ・委員が述べたように高齢者施設で取り組んでいるところもある。
- ・子どもだけでなく地域のどなたが来ても良いような「地域食堂」という形もあり、地域の課題やニーズを次の段階につなげるような役割も担ってもらっている。

事務局説明：(2) 令和7年度子ども条例フォーラムの開催内容について

●事務局（委託業者）から令和7年度子ども条例フォーラムの開催内容案について説明

○委員

- ・楽しそうだなと感じる。SNSで流行った「ビジョンボード」のようで楽しそう。

○委員

- ・キャンバスボードの色や形は選べたほうが良いと思う。
- ・本事業で伝えたいことに「未来の社会は自分たちが作る」とある。高知県の希望など、作品で表現することによって、「高知に戻ってきたい」という思いを醸成できると思うので、テーマに入れた方が良いと思う。

【事務局】

- ・色は検討する。形については、キャンバスボードを切るなどして自由にできる。
- ・「戻ってきたい高知」というのが何なのかという視点だと作りやすい。採用させていただく。

○委員

- ・魅力的で楽しそう。
- ・グループディスカッションについて、1グループ12人でディスカッションするとあるが、多いような気もする。
- ・テーマはいくつ用意するか。

【事務局】

- ・会場に変更があったが資料に反映できていなかった。1グループ6人とし、ゲストが順番に回る予定。
- ・昨年はテーマが多くて複雑化した。今回は「アート作品を作る」ということもあり、抽象的かつ「夢」に関する大きなテーマを一つ設け、縛りすぎず、自由にディスカッションしてもらえたらと思う。

○委員

- ・ゲストの担当アーティストの画像は使用可能か。
- ・中高生にはキャッチーが良い。

【事務局】

- ・アーティストの画像は、大きすぎなければ使用可能。

○委員

- ・事業 KPI に「高知に戻ってきたいと思えるフォーラムに」とある。アンケートにもこの項目を含むなら、フォーラムの中身との関連性が必要。
- ・最後の、講師の方のまとめ方が非常に需要。出てきた作品に対し、ご自身の経験も踏まえて語っていただけると、そこから得られるものがあると思う。

【事務局】

- ・ご意見を内容に反映させていく。

○委員

- ・コラージュアートの素材について、例えば「高知で働く未来」「県外で挑戦する未来」といったテーマで作品を作ろうとしたときに、ファッション雑誌しかないとなったら困る。素材は、講師がある程度フィルターをかけて準備するのか。
- ・企画の内容が個人向けのように思う。時間も限られる中、初めて会う者同士のグループでできるのか。グループワークは共通のイメージがある程度ないと厳しいイメージがある。
- ・本事業の目的が3つあるが、これらを成果として挙げられるようなテーマを考えないといけない。

【事務局】

- ・高知の素材を用意するなど選定には気をつける。そのために、ゲストには事前に高知でロケーションをしてもらう。
- ・グループワークはファシリテーターの役割が重要だと思う。内容や進め方についてはこれからゲストと調整する。また、参加募集時にアンケートを取り、ある程度配置を決めておく。
- ・本事業の目的については、申込時に事前に読んでもらうようなサポートが必要かと思う。

○委員

- ・10年後の自分が何をしているかや、高知で働く未来など、表現するのは難しい。自分の夢にこだわらず、ある程度、夢というものに関していけば、作品を作る過程で自分の夢に気づいていくのではと思う。ある程度テーマを決めてもらえると、ぱっと作りやすい。
- ・あまりに具体的すぎても難しいが、抽象化しすぎるのも難しい。

【事務局】

- ・昨年度まではテーマが細分化されて選択式だった。今回は逆に、大きなテーマを一つ設けたが、いくつかテーマを設定したほうが分かりやすいということであれば、検討する。